



「幸せのために身につけたい3つのテクニック」

校長 浦井 智治

子供たちに幸せになってほしい。どんな人生（環境）に置かれても折れない心をもってほしい。親ならばみんなもっている願いではないでしょうか？これからの予測不能な時代を生きていく子供たちにとって大切なことは、どんな環境（課題）に直面しても、それを前向き（ポジティブ）にとらえられる方法を身につけることではないでしょうか？今月号の内容は、あえて昨年と同じ内容を載せることとしました。「ネガティブな気持ちもポジティブにする3つのテクニック」についてサッカーの長友選手が心がけていることを紹介します。

1 自分を未来から見よう（未来型思考）

ネガティブな気持ちを立て直すには自分自身を未来から見よう。未来の自分を想像して、今やるべきことを決めていく。年の初めには私たちは1年の目標を立てます。1年後の目標を達成できた自分の姿をイメージすることでワクワク感を作り出す。世の中はいつも変わっているから、その変化にうまく対応する方法を考えることが重要です。

2 ミスはHOWで考えよう（原因論から目的論へ）

ミスをしたときはWHY（なぜ）ではなくHOW（どのように）と考える。ミス（失敗）をしたときに何故ミスしたのか考えるとネガティブになります。起きてしまったミスを後悔するよりも、そのミスから、自分がどうやったら成長に結びつけていけるか考えることが大切です。どのようにしたら同じミスを繰り返さないか。次は成功できるか。今回のミスは成功する方法を見つけるために起きたこと。ミス（失敗）はチャレンジした証拠（3学期の始業式で話した内容）。

3 常に感謝する（ありがとう）

感謝の反対は「当たり前」。悩むということは成長できること、素晴らしく幸せなこと。悩める環境に行くことも感謝できるようにすること。自分の周りで起きているすべての出来事は必然性があり、意味のある事。「あの時の〇〇があったからこそ、今の自分がいる。」

長友選手はプロのサッカー選手として、たくさんの批判も受けてきました。そんな時にその批判をポジティブな思考に変えてくれたのが、長友選手の奥様 平愛梨さんでした。「イタリアのチームで長友選手のミスで試合に負けて、イタリア中から、言ったら世界中から批判を受けているときがあった」。それを奥様 平愛梨さんに相談したら「そんなに異国の地で注目されてるの？凄い！って喜んでくれたそうです。これこそがリフレーミング（物事を見る枠組みを変える）ですね。」

大人の私が子供にとって「ネガティブな気持ちをポジティブに変える」見本になりたいと思っています。

学校教育目標 あきらめず挑戦できる子

勉強する子・やさしい子・元気な子

児童数 1年27名 2年24名 3年30名 4年33名
5年36名 6年37名 ひた 9名 合計196名

令和6年2月1日 発行

〒342-0022
吉川市加藤641番地
TEL 048-982-2330
FAX 048-984-5271



保・幼・小連携（幼稚園園児との交流会）

ワカマツ幼稚園の園児（53人）が来校し、学校の施設見学と1・2年生との交流会を行いました。互いにドキドキワクワクの体験でした。



大谷選手 ありがとうございます。

ニュースなどで話題になっていました、大谷選手のグローブが本校にも届きました。右利きの小さめ（低学年用）のグローブと右利き・左利きの大きめ（高学年用）のグローブの3点です。毎日クラスごとに順番に使わせていただいています。職員玄関にいただいたグローブの写真やメッセージを掲示しています。ご来校の際はぜひ、ご覧になってください。



シリーズで伝える、三輪野江小学校の昔話⑧

昭和53年2月20日に竣工式を行いました。お祝いに警察音楽隊が演奏しました。



2月の行事予定

日	曜	行 事 予 定
1	木	体罰等に係る調査配付
2	金	委員会活動
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	体罰等に係る調査提出①
7	水	体罰等に係る調査提出② 4時間授業
8	木	スクールカウンセラー来校
9	金	Jアラート訓練 クラブ活動
10	土	
11	日	建国記念の日
12	月	振替休日
13	火	
14	水	授業参観・懇談会（1年・3年・5年・ひ・た）
15	木	第3回 学校運営協議会 授業参観・懇談会（2年・4年・6年）
16	金	クラブ発表会
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	さわやか相談日
21	水	学校保健委員会
22	木	
23	金	天皇誕生日
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	学校応援団の皆様へ感謝する会
28	水	6年中学校体験（2回目）
29	木	

3月の主な予定

21日（木）給食終了日
22日（金）3時間授業
25日（月）卒業証書授与式（1～4年臨時休業）
26日（火）修了式

学校評価について

学校評価とは、児童生徒がよりよい学校生活を送れるよう、
学校運営の改善と発展を目指すものです。

学校評価には、自己評価と学校関係者評価とがあります。

【自己評価】各学校の教職員が教育活動その他の学校運営の状況
について自ら行う評価

【学校関係者評価】保護者、地域住民等の学校関係者が、教育活動そ
他の学校運営の状況について行う評価



学校の取組

各小・中学校において重点目標を設定し、その
達成の状況や達成に向けた取組の適切さ等を評価
することにより、学校運営を改善します。

学校運営協議会 家庭・地域との連携

学校評価を実施し公表すること
により、適切に説明責任を果た
すとともに、保護者や地域の方
々からの理解と参画をいただき
ながら、学校・家庭・地域の
連携・協力による学校づくりを
進めます。



各小・中学校より、学校だより等を通じて学校評価の結果が公表されます。各学校
の取組の状況を知るとともに今後の学校運営に家庭・地域の皆様のご協力をお願い
します。

教育委員会の支援

学校評価の結果を踏まえて、
教育委員会が、学校に対する支
援を行うことにより、各小・中
学校の教育のさらなる向上を図
ります。

よいよい
学校生活

2月の下校時刻の変更について（お知らせ）

日 曜	変更を必要とする 行 事 名	変 更 後 登 下 校 時 刻					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2 金	委員会活動				14:20		
7 水	教員の資質向上研修	13:10	13:10	13:10	13:10	13:10	13:10
14 水	授業参観・懇談会			14:20	14:20	14:20	14:20
15 木	授業参観・懇談会				14:20	14:20	14:20
16 金	クラブ発表会			15:15			
28 水	中学校体験						15:00

※28日（水）の6年生は、東中学校で授業を受けてから自転車で自宅へ帰ります。

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	4	学校生活の様々な場面で自己肯定感、自己有用感を高められる雰囲気作りに努めている。なにより、どんなときも笑顔で迎え話を聞くよう常に心がけ、子どもたちも少しずつ心を開いて笑顔を見せてくれるようになってきたと思っている。	4	感染症拡大防止措置を継続的にを行い、分類が移行しても感染状況を適切にとらえ、必要に応じて一同に会する活動やオンラインでの活動を組み合わせることにより可能な限り通常の教育活動を行うことができた。
2	教職員は、PDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあっている。	4	教科指導では、教材研究を大切に行い、児童の気づきや自由な考えをもつ時間を必ず確保するように努めた。自分の役割をこなすことはもちろんのこと、周りの先生方と協力して足りないところは補いながら、助けあって取り組むことができた。	4	年度当初に作成する教職員自己評価シートに自己の校務分掌や教科指導・学級経営の計画・実施優先順位を決め、計画的に取り組んでいる。また、管理職が定期的な面談・見届けを行いおこなわれ、どの職員も当初の目標達成に近づいている。
3	学校は、事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・提示し、迅速に対応できる体制を整えている。	4	トラブルに際しては、管理職の先生方や関係の先生方に相談しながら、児童の立場に立った対応が取れている。また、保護者への連絡を迅速に行なったり、丁寧な説明をしつづけるよう努めている。	4	吉川市のいじめ防止基本方針を踏まえた本校のいじめ等に関する防止基本方針を策定し、研修を通じて共通理解を図っている。しかし、このことにおける取組を広く情報発信できていないので、次年度の最優先取り組み事項として位置付けたい。
4	学校は、清掃活動や掲示物等に力をいれ、組織的に環境美化に努めている。	3	清掃の回数が減ったため、校内が比較的汚れていることが何度あった。自分からゴミを拾える児童の育成が必要である。	4	目標表の改定により清掃活動の回数は多少減少したが、年度当初の職員会にて、「ごみを落とさない」、「臭いが付いたら捨てる」子供の育成を図ってきた。また、掲示物は季節や学習内容が張り替えられるようにしてきた。今後もHPや学校だより等で取り組みを発信していきたい。
5	学校は、小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	4	東中学校区の今年度の取組は、方向性が一致進めてこられた。特に、総合的な学習の時間の使い方に際しては、来年度以降も継続していきたい。また、今後も更なる推進の一つとして、中学校の先生が小学校で授業を行うなどをしていきたい。	4	東中、旭小と合同研修会を実施し、研修テーマを設定して同歩調で進めてきた。小学校から中学校への段階のない進学への取り組みとして、中学校体験を実施した。今後も連携を密にし、取り組み内容の公開（情報発信）を積極的にしていきたい。
6	教職員はPTA活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	4	行事などの際に積極的にPTAの方と連携して活動を行っている。また地域の方には、下校の見守りや学内での活動など様々な場面でご協力いただいている。PTAのみならずには感謝しかありません。ありがとうございます。	4	管理職がPTA運営委員会に参加し、情報の共有を行ってきた。また、地域の活動にも積極的に関わり、施設設備の貸出等も行ってきた。地域の人材確保では学習ボランティアとして数多くのご協力をいただくことができた。
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	4	普段の児童の様子や行事などの写真をタイムリーに配信し、保護者に伝えている。学校だよりでは、行事予定や活動の様子をわかりやすく伝えている。	4	学校だよりやHPの内容は、児童の活動がわかるように、画像を多く掲載した。特に学校だよりは、カラー版にしてメール配信もすることにより保護者もいつでも確認できるようにしたことが高評価につながった。引き続き続けていきたい。
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	4	地域の方があつての三輪野江小学校だと感じている。様々な地域の方を活用して、児童は普段できないような様々な活動を行っている。	4	農業体験と中心に子供たちの心をはぐくむ活動を展開し、一定の成果を得ることができた。しかし、学校関係の方々の高齢化に伴い、次年度以降の実施については大きく見直し時期を迎えている。
9	児童は、落ち着いた学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	4	児童が着手する教科にも積極的に取り組めるよう、教材や教具を工夫しながら学習を進めている。どんなときも前向きな声掛けを心がけ、子どもたちの自己肯定感を高められるようにしている。また、「自分たちの経験が繰り返すことで、授業に対して積極的に取り組めるようになってきた。」	4	学級担任による学級経営の実践により、一人一人が落ち着いた学校生活を送っている。また、担任との信頼関係と一人一台端末の効果的な活用により、計算や漢字等の基礎学力の向上に役立てることができ、授業内容を理解できる児童が定着してきた。今後の個に応じた指導の工夫をしていきたい。
10	教職員は、学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童の実態に基づいた授業改善に努めている。	4	特別支援学級では、それぞれ個に応じた学習内容を考え、児童の理解度ややる気を見て内容を調整していき、楽しくできるようにしている。達成度を実感できるよう一緒にテストを行いできるを実感できるようにしている。また、しばらくしてまた同じ課題を学習することで更に理解を深めるようにしている。	4	学級担任は、担当する児童の前年度の学力や生活の様子を事前に把握し、個に応じた指導を行ってきた。今年度は、探究型学習を重視し児童が主体的に学ぶ授業実践を行った。今後も児童に合った授業改善を図っていく必要があると感じている。
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	4	他市町の小学校の使用状況と比較すると、一人一台端末を使いこなせている児童が多いと感じている。教師も常に新しいものを学び、児童に提供できるように努力したい。	4	一人一台端末を活用した学習環境の整備について高い評価をいただいている。様々な都合で登校できない児童へもオンラインを通じて学校の雰囲気を感じ、家庭での学習ができることの評価は高い。
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	3	掲示物など統一されたものもあり、共通理解ができている。共通理解は事あるごとに図るようコミュニケーションをとるよう心がけている。	4	1小中一貫教育の観点から作成した学習ルールをもとに指導に当たること、どの児童も定着化が図れている。今後も、学級懇談会等で保護者
13	児童は、友達や教職員・来校者に進んであいづつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	3	教師が常に正しい言葉使い、丁寧な言葉使い、優しい言葉づかいをすることで子どもたちの話し方も穏やかになってきたと思う。また、笑顔で元気な挨拶を率先して行っている。元気な挨拶は上手です。場に応じた言葉遣いは今後も指導していきたい。	4	地域の方から、朝や帰りの挨拶は元気できるという評価をいただいていることから、昨年より高評価につながったと感じている。今後も挨拶のできる子供の育成を図っていきたい。
14	児童は学習のルールや生活のきまり・時間を守ることができる。	3	発達の段階にもよるが、自ら時計を見て、授業が始まる時間を確認するよう促しているが、なかなか切り替えができず始まる時間になっても着席がけを家で来校に促さなければならぬという状況がある。今後は、決まり事を可視化し、わかりやすく子どもたちに伝えていく努力をするとともに、根気強く声掛けを行っていきたいと思う。	4	多くの児童が担任の指導の下、規律正しい生活を日々心掛けている。しかし、一部の特別な配慮を要する児童への生活のきまり等の厳守が徹底していないので、個に応じた特性に配慮しながら今後と粘り強く指導していきたい。
15	児童はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合って、学校生活を送っている。	4	時々喧嘩はあるが、素直で気持ちの優しい子が多く、指導も素直に受け入れる子が多い。叱らずに児童の話を聞いてあげている先生が増え、学ぶことが多い。	4	学級担任は、子供たち同士の良い人間関係の構築を図るために、朝や帰りの会等の時間内で指導する時間を有効的に活用して、友達をよさで指導してきた。互いのよさを尊重し合いながら学校生活を円滑に送ることができていた。今後も引き続き指導していきたい。

学校評価の文字が小さく、読みにくい場合は学校情報配信アプリ（home&School）にて

ご確認ください。